

全校の皆さん、おはようございます。

今日から毎週金曜日この時間に、朝の法話をお送りします。瞑想の姿勢で、心を落ち着けて、聞こえてくる法話の言葉に耳を傾けてください。

さて、新入生を迎え、新しい年度がスタートしました。それぞれに新しい環境での生活が始まり、今までは勝手が違うことにまだまだ戸惑うこともあるかと思いますが。特に新入生は、伊那西高校の時間割の中に「仏教」という授業があることに驚いた人もいるかと思えます。2・3年生はもう慣れたかもしれませんが、この機会に改めて、仏教の学びとはどういうものか、今一度考えてみたいと思います。

時間割には「仏教」とありますが、正確には「宗教科」の授業です。さまざまな宗教がある中で、伊那西高校は「仏教」を学校の土台にしています。

仏教に限らず、そもそも高校で学ぶとはどういうことでしょうか。高校を卒業して進学する人もいれば就職をする人もいます。進路はそれぞれですが、共通するのは高校での生活を経て大人になり社会人になっていくことです。社会の中で人生を歩んでいく一人の人間として大事なことを学ぶ、これが高校での勉強の基本的な考え方です。ですから、大学受験や就職試験のためだけに高校の勉強があるのではありません。そのように考える中で、伊那西高校は「生きていくうえで仏教に学ぶことが大切だ」という願いのもとに創立されました。

ところで、ここではあえて「仏教を学ぶ」とは言わずに「仏教に学ぶ」と言っています。伊那西高校と同じ真宗大谷派の学校で長らく校長を務めたある先生は、教育を「付加価値教育」と「本体価値教育」の二つに分けて考えることを大切にされました。「仏教を学ぶ」と言ったときには、仏教の知識という付加価値を自分に付け足すという意味になりますので、これは「付加価値教育」です。一般的には何かを付け足すことが教育だと考えられています。それに対し「本体価値教育」というのは、何かを付け足そうとしている本体である「私そのもの」に関する学び」です。「仏教に学ぶ」と言うときには、仏教に「私そのもの」を学ぶ、ということの意味します。「を」にするか「に」にするかで、大きく意味が異なります。

社会を生きていくうえで、また受験や競争に勝つために、役立つ知識や技術を身につける「付加価値教育」は大切かもしれませんが、それは、家に例えるなら見た目や性能の良い家を建てようとすることです。それに対して「本体価値教育」は、家の基礎工事のようなものです。土台が疎かだと、その上に立派な家を建てても安心して住むことはできません。受験勉強の役には立ちませんが、「私そのもの」を考える仏教という学びがあることは、大切なことだと思いませんか？

これで朝の法話を終わります。